

図1 心臓機能障害者の年齢階層別 ADL 平均値

(平成23年度「生活のしづらさなどに関する調査」(厚生労働省)データを使用)

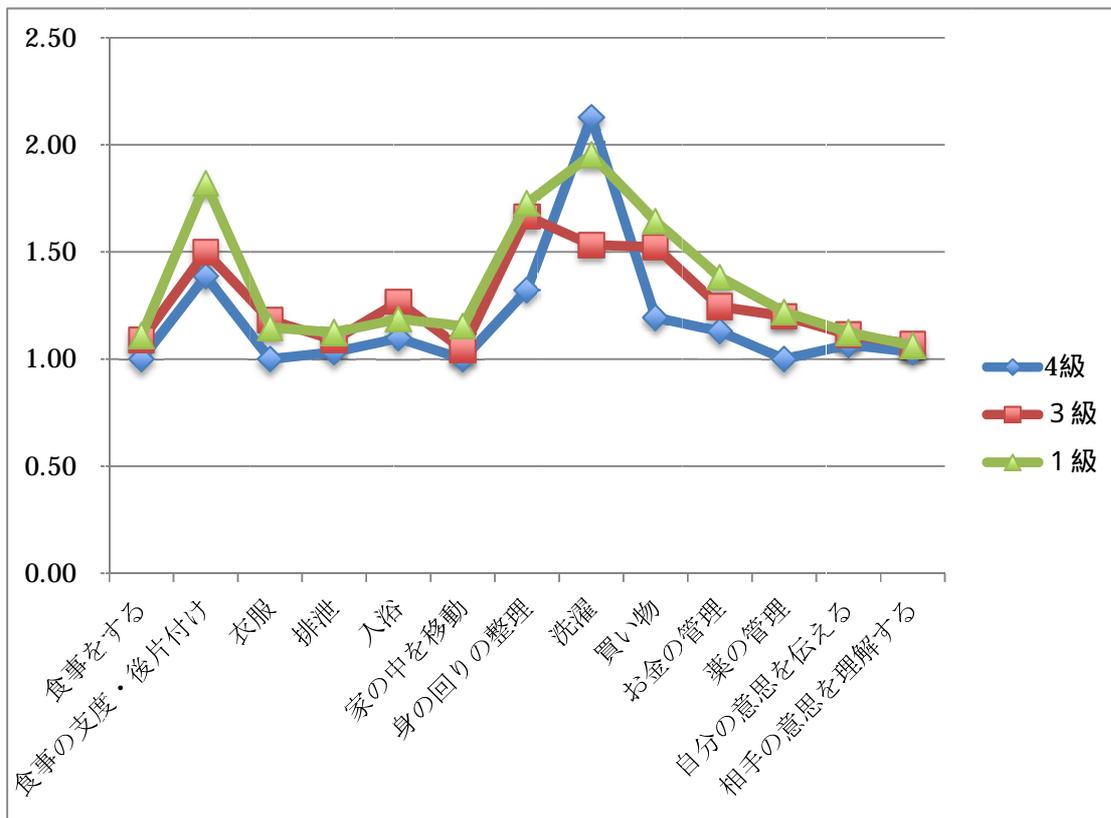


図2 心臓機能障害の障害者手帳等級とADL値の関係

(平成23年度「生活のしづらさなどに関する調査」(厚生労働省)データを使用)

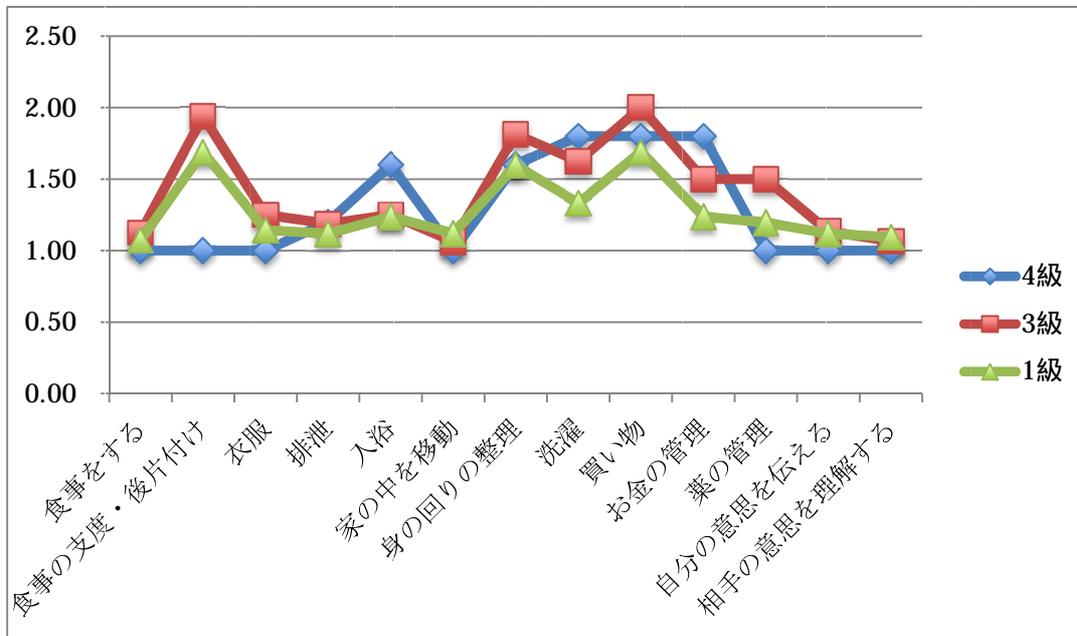


図3-1 心臓機能障害（40-64 相女性群）の障害者手帳等級とADL値の関係
（平成23年度「生活のしづらさなどに関する調査」（厚生労働省）データを使用）

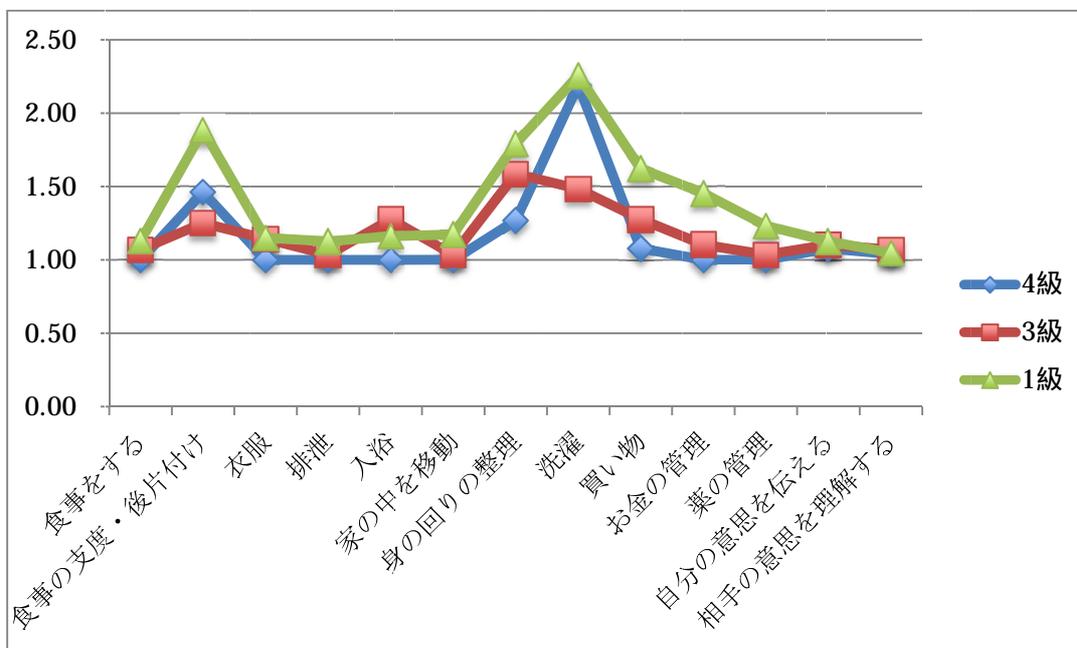


図3-2 心臓機能障害（40-64 相男性群）の障害者手帳等級とADL値の関係
（平成23年度「生活のしづらさなどに関する調査」（厚生労働省）データを使用）

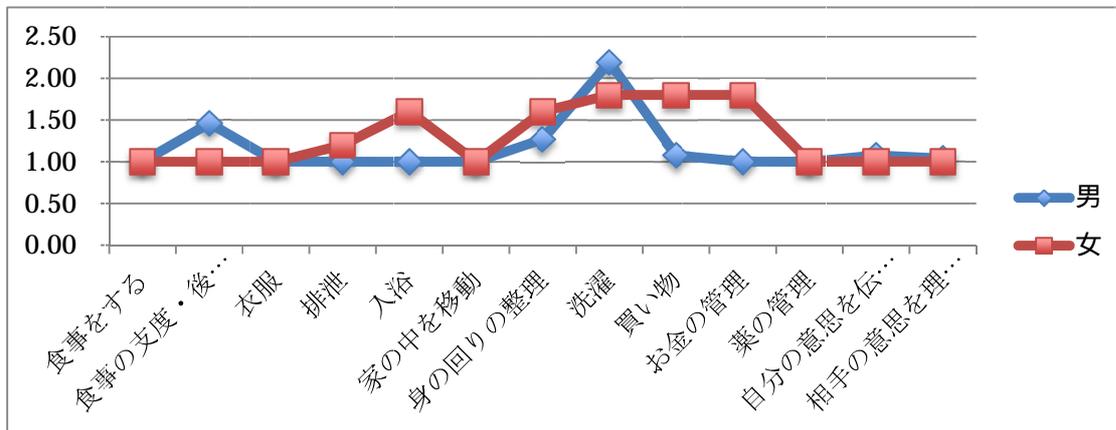


図3-3 40-64歳群 心臓機能障害手帳所持者（4級）のADL男女差
 （平成23年度「生活のしづらさなどに関する調査」（厚生労働省）データを使用）

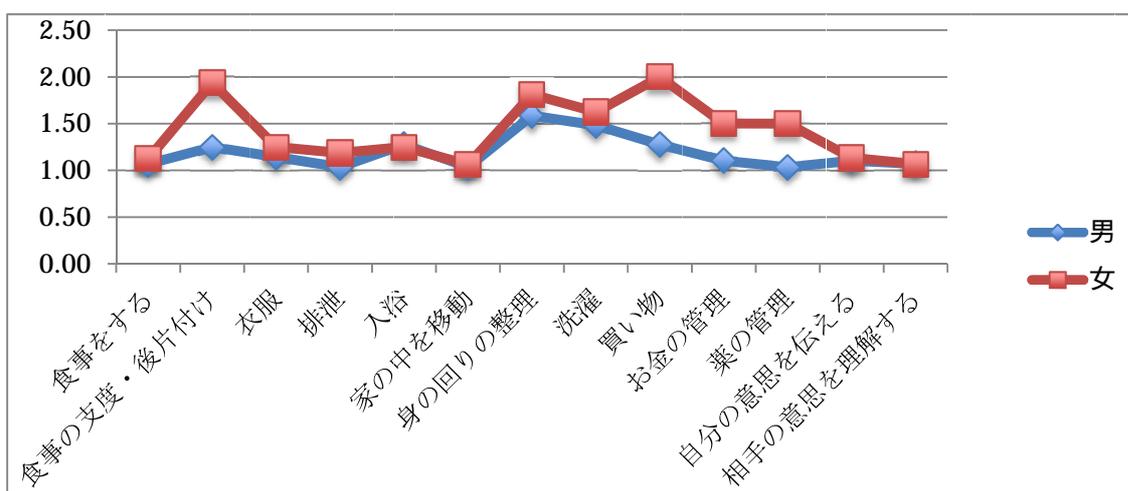


図3-4 40-64歳群 心臓機能障害手帳所持者（3級）のADL男女差
 （平成23年度「生活のしづらさなどに関する調査」（厚生労働省）データを使用）

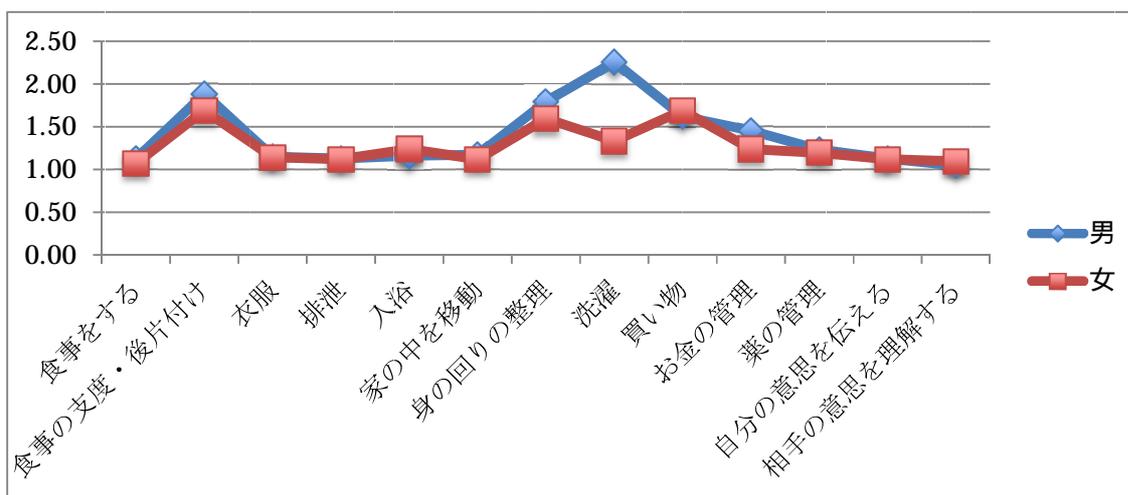


図3-5 40-64歳群 心臓機能障害手帳所持者（1級）のADL男女差
 （平成23年度「生活のしづらさなどに関する調査」（厚生労働省）データを使用）

表2 肝臓機能障害回答者の等級別の人数・平均年齢・重複者数・せいかつのしづらさが生じ始めた年齢
平均

肝臓	人数	重複人数	平均年齢	年齢幅	年齢 発症
1級	12	4	59.5	3-76	65.6
2級	4	2	66.5	49-83	54.0
3級	4	3	83.5	79-87	55.0
4級	1	1	76.0	76	71.0
合計	21	10	66.4	3-87	61.0

(平成23年度「生活のしづらさなどに関する調査」(厚生労働省)データを使用)

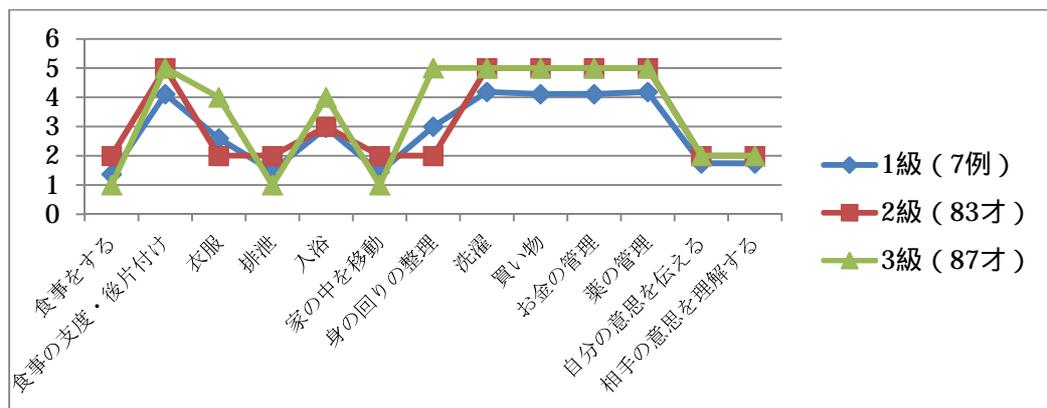


図4-1 肝臓機能障害 (重複障害を除く) の等級と ADL 値

重複障害のない19名では、1級でADL値が高い(生活の困難が高い)わけではなかった。

(平成23年度「生活のしづらさなどに関する調査」(厚生労働省)データを使用)

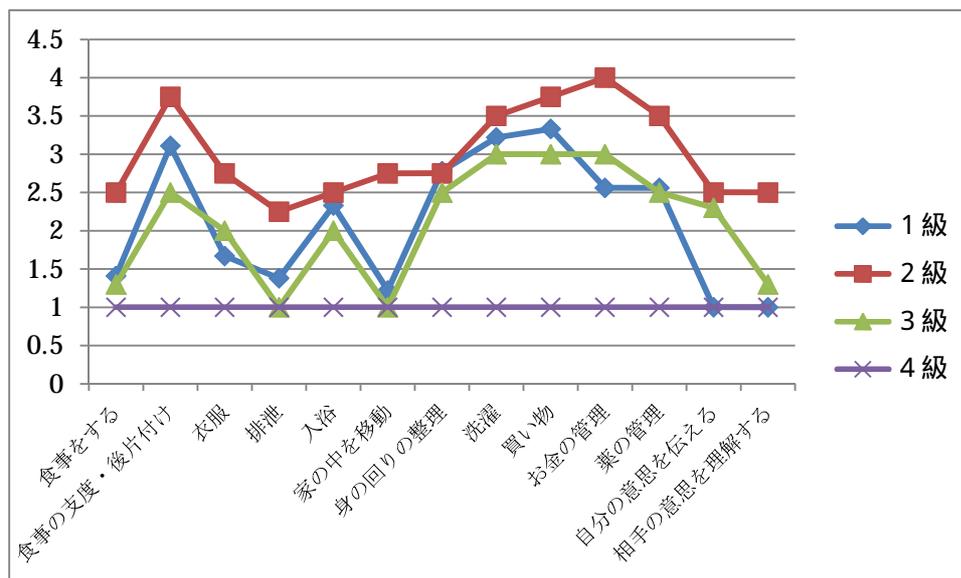


図4-2 肝臓機能障害 (重複障害も含めた21名) についての等級ごとのADLプロフィール。

4級の回答者はいなかった。

(平成23年度「生活のしづらさなどに関する調査」(厚生労働省)データを使用)

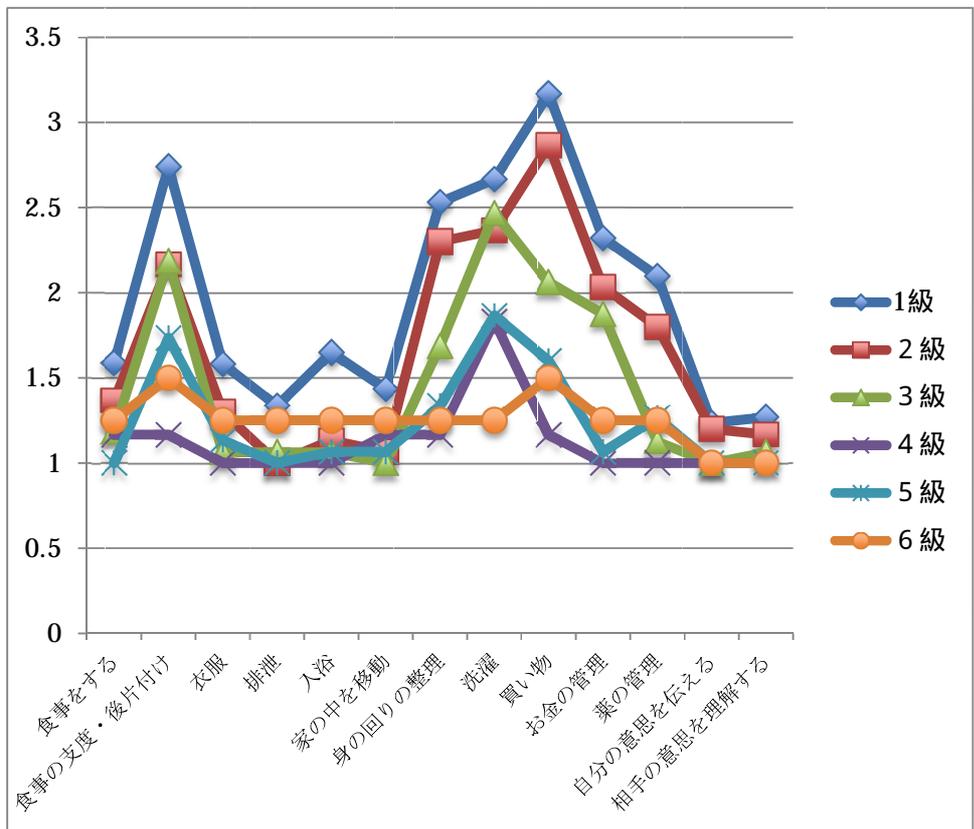


図5 視覚障害者（聴覚以外の重複障害も含む）の等級とADL値
 （平成23年度「生活のしづらさなどに関する調査」（厚生労働省）データを使用）

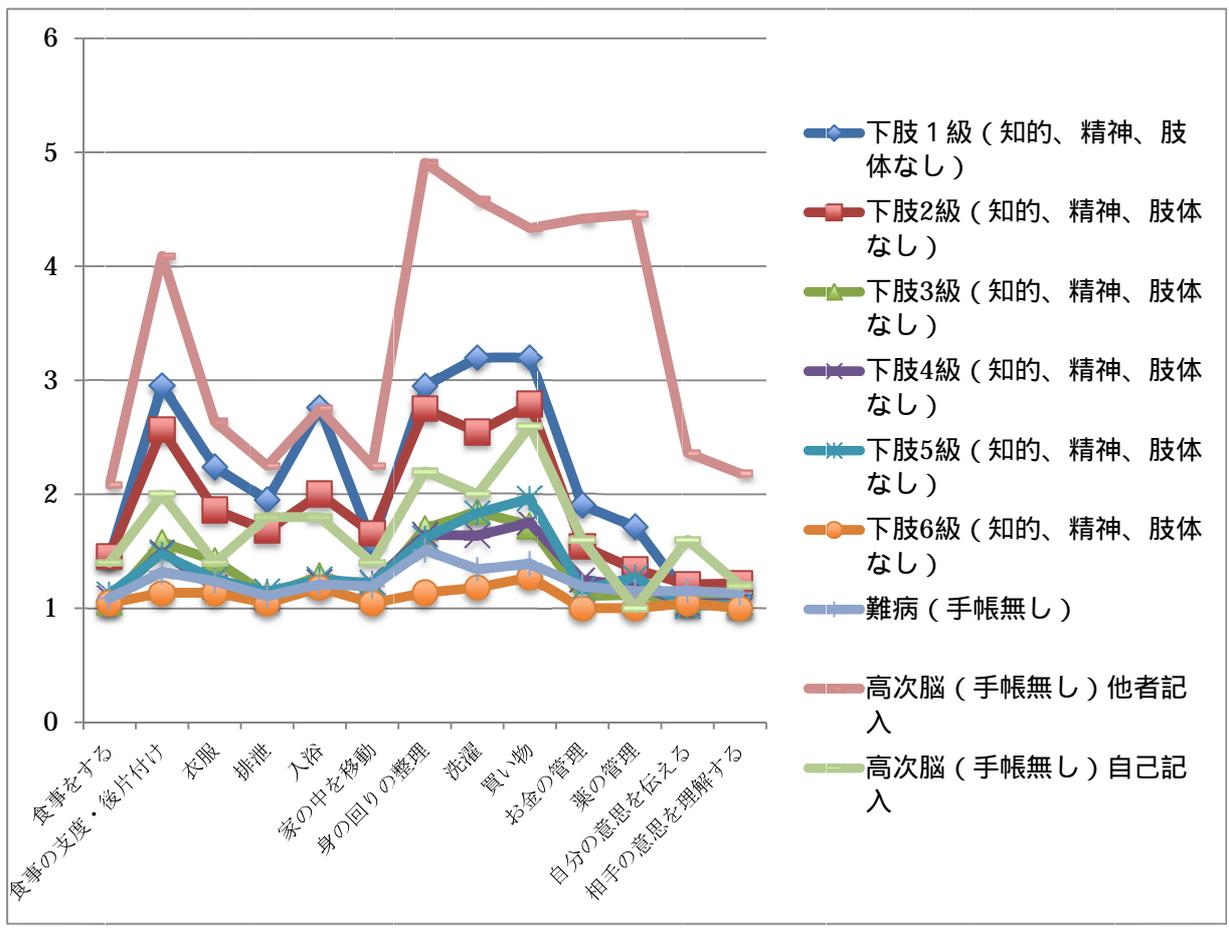


図6 下肢機能障害者（知的、精神、他の肢体不自由の重複はない者）の等級とADL値、および難病・高次脳

機能障害者（手帳無し）のADL値

（平成23年度「生活のしづらさなどに関する調査」（厚生労働省）データを使用）

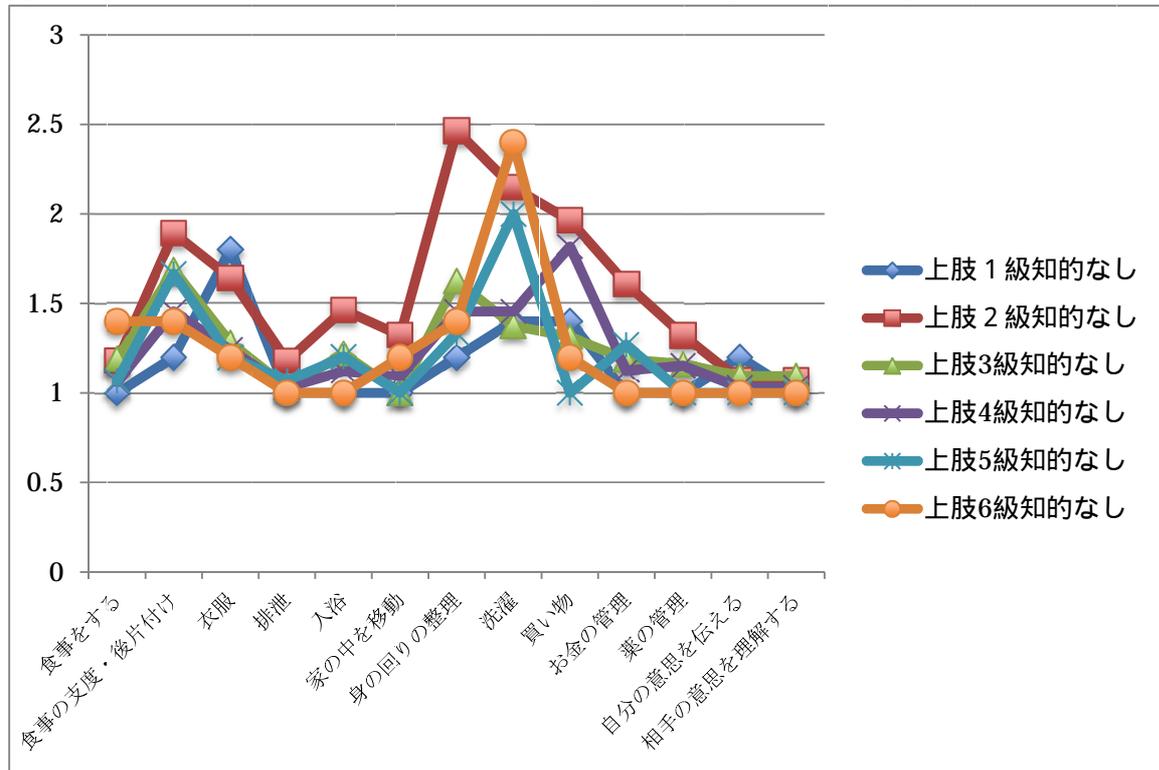


図7 上肢機能障害者（知的、精神、他の肢体不自由の重複はない者）の等級とADL値

（平成23年度「生活のしづらさなどに関する調査」（厚生労働省）データを使用）

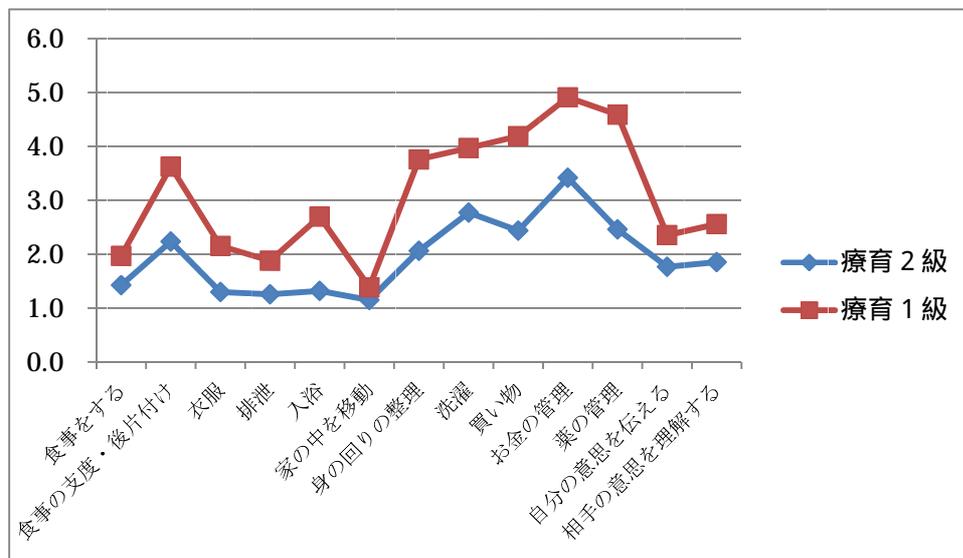


図8 療育手帳所持者（重複障害も含む）の等級とADL値

（平成23年度「生活のしづらさなどに関する調査」（厚生労働省）データを使用）

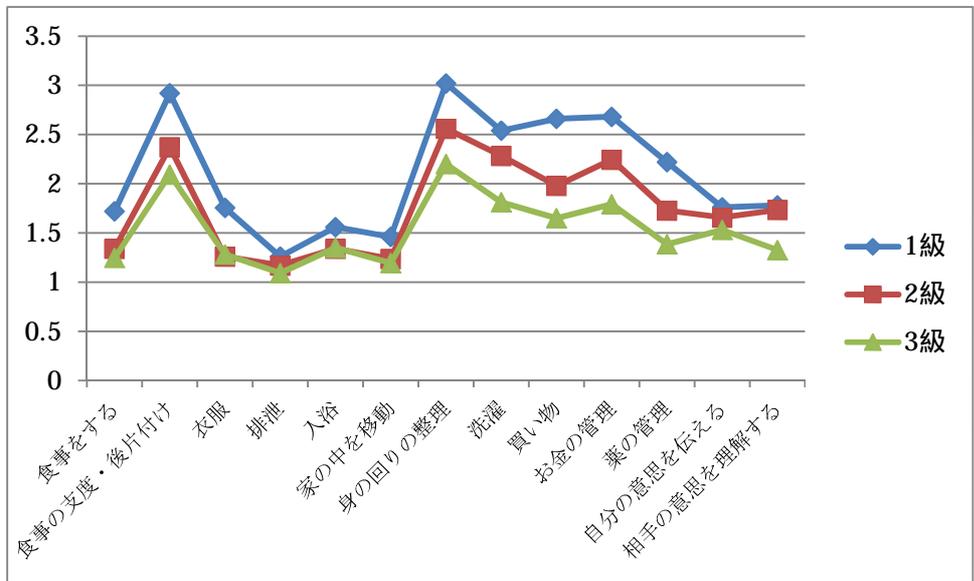


図9 精神障害者保健福祉手帳所持者（重複障害も含む）の等級とADL値
 （平成23年度「生活のしづらさなどに関する調査」（厚生労働省）データを使用）

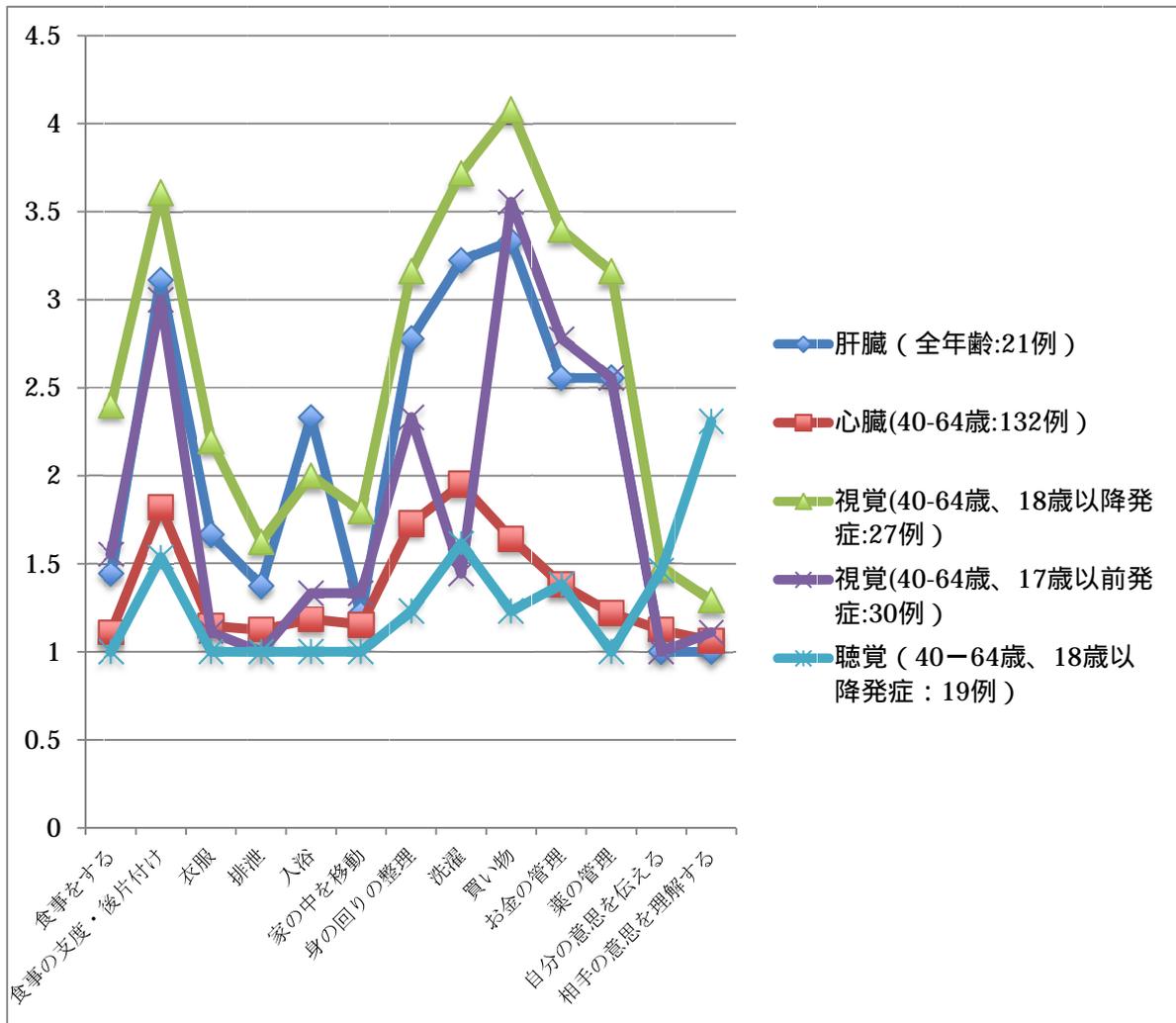


図10 障害種別（1級40-64歳群）とADL平均値（視覚障害、聴覚障害、肝臓機能障害、心臓機能障害）（平成23年度「生活のしづらさなどに関する調査」（厚生労働省）データを使用）

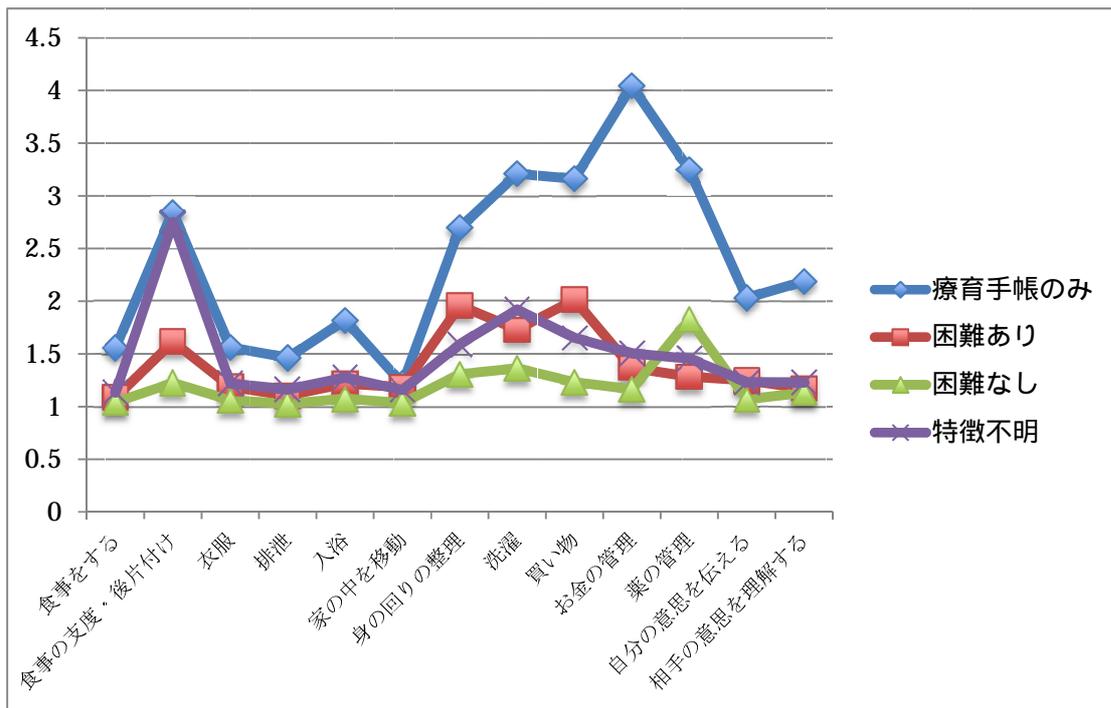


図11 ADL平均値（療育手帳所持者、過去6か月間に心身に具合の悪いところがあった群、なかった群、特徴不明群）

(平成23年度「生活のしづらさなどに関する調査」(厚生労働省)データを使用)

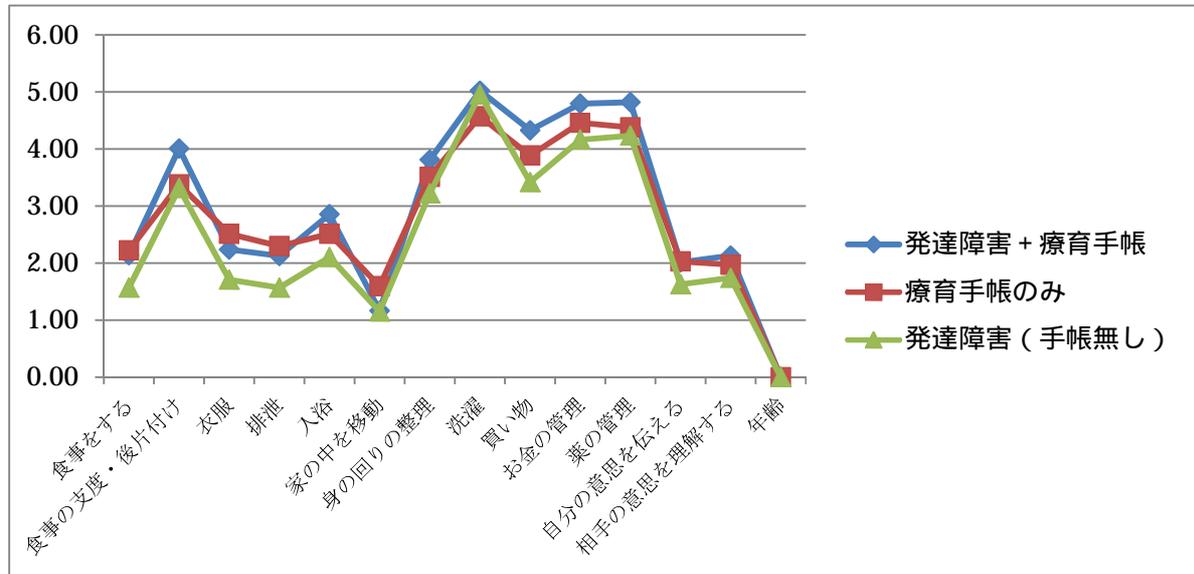


図12 療育手帳所持(1級)と発達障害の組み合わせとADL値(0-17歳)

(平成23年度「生活のしづらさなどに関する調査」(厚生労働省)データを使用)

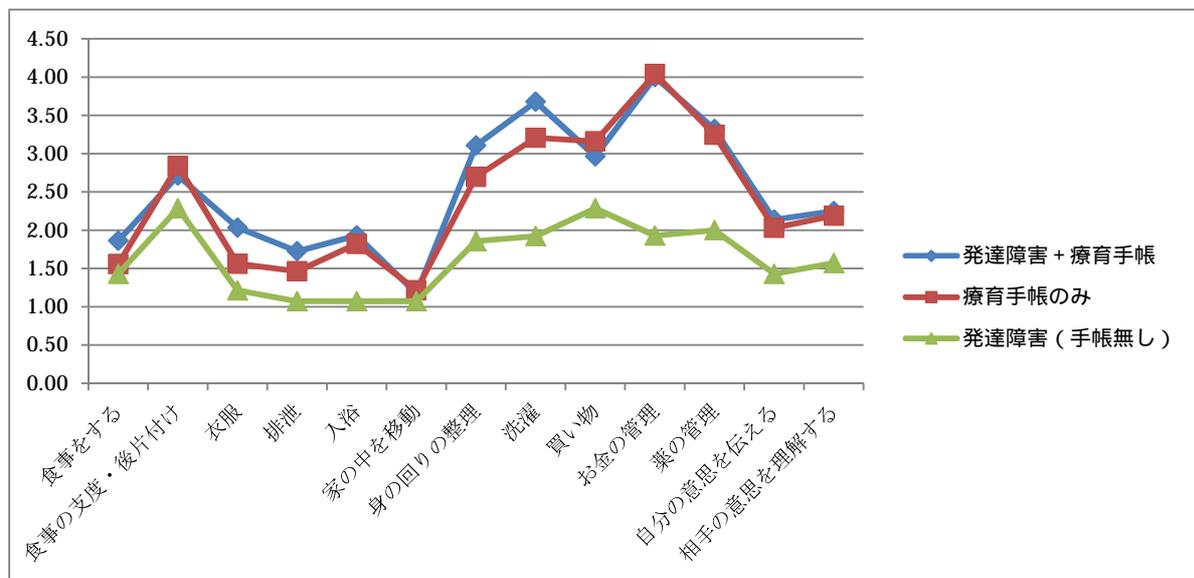


図13 療育手帳所持(1級)と発達障害の組み合わせとADL値(40-64歳)

(平成23年度「生活のしづらさなどに関する調査」(厚生労働省)データを使用)

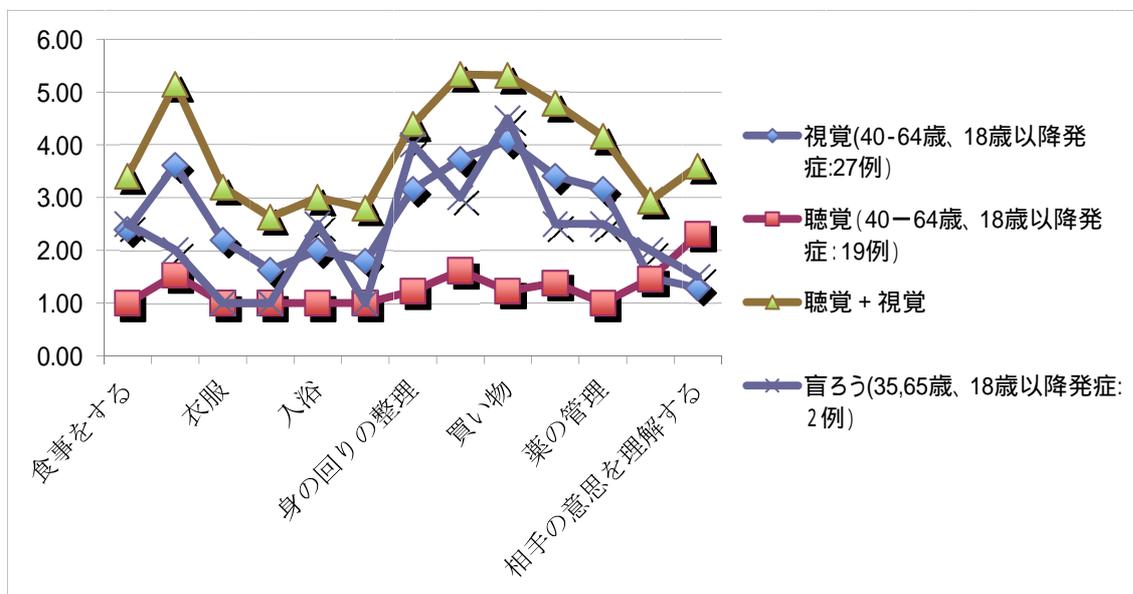


図 14 18歳以降に発症した視覚障害1級、聴覚障害2級、盲ろうのADL平均値。聴覚+視覚は聴覚障害2級と視覚障害1級のADL平均値の合計。

(平成23年度「生活のしづらさなどに関する調査」(厚生労働省)データを使用)

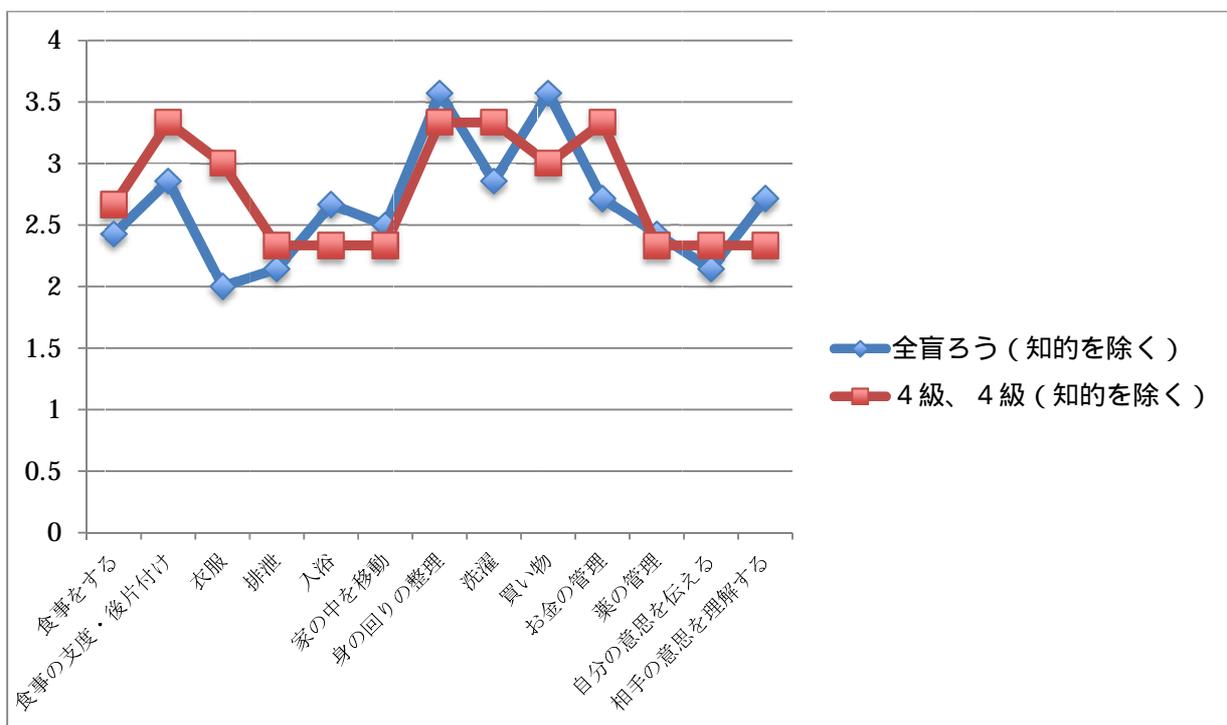


図 15 視覚障害1級、聴覚障害2級の盲ろう者は、視覚障害4級、聴覚障害4級の盲ろう者と比較してADLの自立度に大きな差はなかった。しかし、視覚障害4級、聴覚障害4級の盲ろう回答者は肢体不自由、内部障害の重複障害があり、ADLの自立が感覚障害だけの影響であるかどうかは不明であった。

(平成23年度「生活のしづらさなどに関する調査」(厚生労働省)データを使用)